

甲南人脈

その 2

日本山岳会の主流を形成

山岳部創設
は大正13年

樹の濃密な葉で山頂は、
 青々とした緑の海である。
 山の頂上には、大正十三年と古いが、
 とれど、木々、樹々のまじり合ひが、
 いい。それに、見渡す限り、木々、
 山頂まで、



科学的登山で無事故誇る

不思議と多い兄弟部員
著作やほん訳で業績も

おけなかつた御前は、ほんとに、り、その間、御目撃のナ。い、このお前が、御座のふなる

甲南山岳部のおもな登攀史

甲斐人の「あま」には、甲斐の國の文藝家
 屋の中でも、最も古に書かれた文藝書をもつ、美
 濃郡の二ツ山間の〇とが書院とことにな
 った。以下は二本サイに開かれた山田ちのめ
 の語である。(文中敬称略)

[illegible]

和十三年八月 田一 湯澤さげに、▽昭和二十
 スシレックホルン東北 大正十九年 田一 薩摩マナ
 和十四年三月 豊多舞 スル崎崎、▽昭和十八年 田一
 文三、福井、ジャンタ 二回等第三次マナル能
 昭和 七月 松松 岡 伊藤 収二回文三

北アへ蒸発

[illegible]

NHKに出場

せうなうた人のうち、伊藤園 明では桜の山荘とあてて「
 伊藤」(原文ママ)が、日本の山 山をめぐり、白田で通商の森
 山荘に集った男達は忘れられな た古蹟の中に、(大)中安代代の
 伊藤は今日新聞に載った。戦 船の海軍にバスとて、林林に
 船の海軍にバスとて、林林に

ヒマラヤ経験
の女子部員も

[illegible]

今年こそ、わが家。

今年こそ、
願のわが案
つて、イキの
惜報を集め
比べて選べ
報、スピー
議予定、預
報物件特
惜報をみだ
集めました
役立てくだ
みなお、地
定価が異な

